

## 4. 雲仙温泉集団施設地区再整備基本計画

「平成 21 年度雲仙天草国立公園雲仙地域再整備計画策定業務」及び雲仙プラン 100 の将来ビジョンや行動計画並びにユニバーサルデザインの調査結果を踏まえ、雲仙地域ワーキング並びに雲仙地域委員会での検討を経て、雲仙温泉集団施設地区再整備の基本計画を立案した。以下にその内容を示す。

### (1) 地獄のブラッシュアップ整備

#### 1) 整備方針

雲仙を特徴付ける自然や歴史が詰まった地獄は、雲仙温泉の魅力の源泉といえる場所であり、雲仙来訪者が滞在期間中一度は訪れる場所である。一方、来訪者の滞在時間の平均は 20～30 分と言われ、豊富で奥深い魅力を伝えきることができていない点が課題となっている。このような現状を踏まえて、以下のような方針のもと温泉街中心部のリフレッシュ整備を進めることとする。

- 見るだけの地獄から体験・体感できる地獄へ
- 分かりやすく伝える
- きれいに見せる
- 新たなアクティビティを提供する

地獄の滞在時間を「20～30 分」から「1 時間程度」へ

#### <現在の地獄の様子>



## 2) 整備項目

地獄のブラッシュアップ整備における主な整備内容は以下の通り。整備箇所については、次々頁の地図を参照のこと。

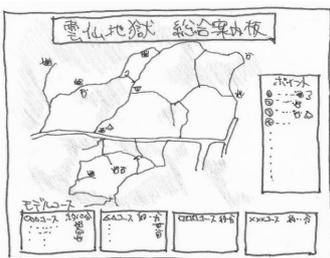
| 箇所                    | 主な整備内容   |
|-----------------------|--|
| 1) 雲仙地獄入口周辺<br>(国道東側) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・入口ゲート、案内サイン、総合案内板の設置 (改修、移設含む)</li> <li>・記念撮影スポット</li> <li>・周辺施設と連携したおもてなし機能、情報提供機能等の拡充</li> </ul>   |
| 2) 八万地獄周辺             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・爛付け設備の修景、解説板の設置</li> <li>・熱体験歩道等の整備</li> <li>・ベンチ、東屋等休憩施設の設置</li> </ul>  |
| 3) お糸地獄～真知子岩<br>周辺    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・蒸し場、休憩ベンチ、足岩盤浴、岩盤浴、熱体験歩道の設置</li> <li>・滞留場所の整備、泥火山の観察場所の整備</li> <li>・総合案内板の設置 (位置の変更、改修)</li> </ul>   |
| 4) 展望休憩所周辺            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・休憩しながら楽しめる施設整備 (岩盤浴、熱体験歩道等の設置、ベンチ・東屋等休憩施設の改修)</li> <li>・展望場所にふさわしい景観の演出 (案内板の設置など)</li> <li>・急勾配への対応 (階段部への手すりの設置など)</li> </ul>  |
| 5) 大叫喚地獄・邪見地<br>獄周辺   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地獄にもっと近づけるような張出デッキ等の整備</li> <li>・記念撮影に対応した園路の整備 (滞留場所の確保など)</li> <li>・解説板の設置</li> </ul>  |
| 6) 泥火山～婆石・鏡石<br>周辺    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光客の目に配慮した修景 (植栽・人工物・源泉の行き先解説板など)</li> <li>・水やお湯に触れられる環境整備 (足湯ベンチ、歩行浴施設の整備の設置など)</li> <li>・泥火山周辺の環境整備 (泥置き台や手洗い水路の設置、水位調整や土砂流入対策設備の整備・修景、解説板の改修)</li> <li>・展望スポット周辺の通景伐採、資源周辺の植栽の適正管理</li> </ul> |
| 7) 旧八万地獄入口<br>(国道西側)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・案内サインの設置、総合案内板の設置 (改修、移設含む)</li> <li>・園路のバリアフリー化 / 緩傾斜化</li> <li>・地獄へ向かう通路の修景伐採</li> </ul>   |
| 8) 旧八万地獄周辺            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・湯の神周辺の整備 (解説板におしどりの池の大黒天とのつながりを記載)、湯路の改修 (足湯も検討)</li> <li>・外周園路周辺の自然環境整備 (通景伐採→マツについてはマツ枯れで減った周辺の山への移植も検討)</li> <li>・原生沼との連絡性の向上</li> </ul>  |

|            |   |
|------------|---|
| 9) 主要園路    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・園路のバリアフリー化 / 緩傾斜化 / 斜路における一定区間毎の平坦部の設置</li> <li>・舗装の再整備（歩道の隙間の解消：車いす・杖・つまずき防止、左右端部の立ち上がり：白杖のガイド）</li> <li>・各種管路の集約化、修景整備</li> <li>・植栽の適正管理（修景、通景伐採）</li> <li>・案内板、解説板の再整備（視認性の向上、ルート毎の見所や特徴、各地点の温度を示すなど）</li> </ul>   |
| 10) その他の園路 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・解説板、案内板、道標などサインのユニバーサル化（UDルート、斜度、階段の明示、外国語（4カ国語）対応）</li> <li>・利用施設のユニバーサル化（車イスの人も使えるようなベンチや体験できる施設の工夫）</li> </ul> <p>※「自然公園公共標識の標準表示例（H22.3）」、「国立公園集団施設地区等ユニバーサルデザインガイドライン（H21.2）」を参照する→これらを元に、温泉街の宿泊施設、商店、案内・観光施設等も各施設にてサインを統一化するよう努力する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目、耳など資源の内容に応じたアイコンを開発しサインへ表示</li> </ul> |
| 11) その他    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・源泉、爛つけ毎の設置者名板の統一デザインを検討し、各設置者にて整備</li> </ul>  |

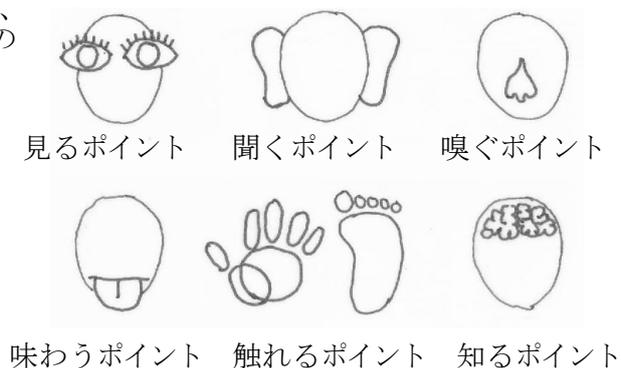
<イメージ図案>

●総合案内板

見どころ、おすすめルート、UDなどを表示して、地獄の奥へ誘導、滞在を促す

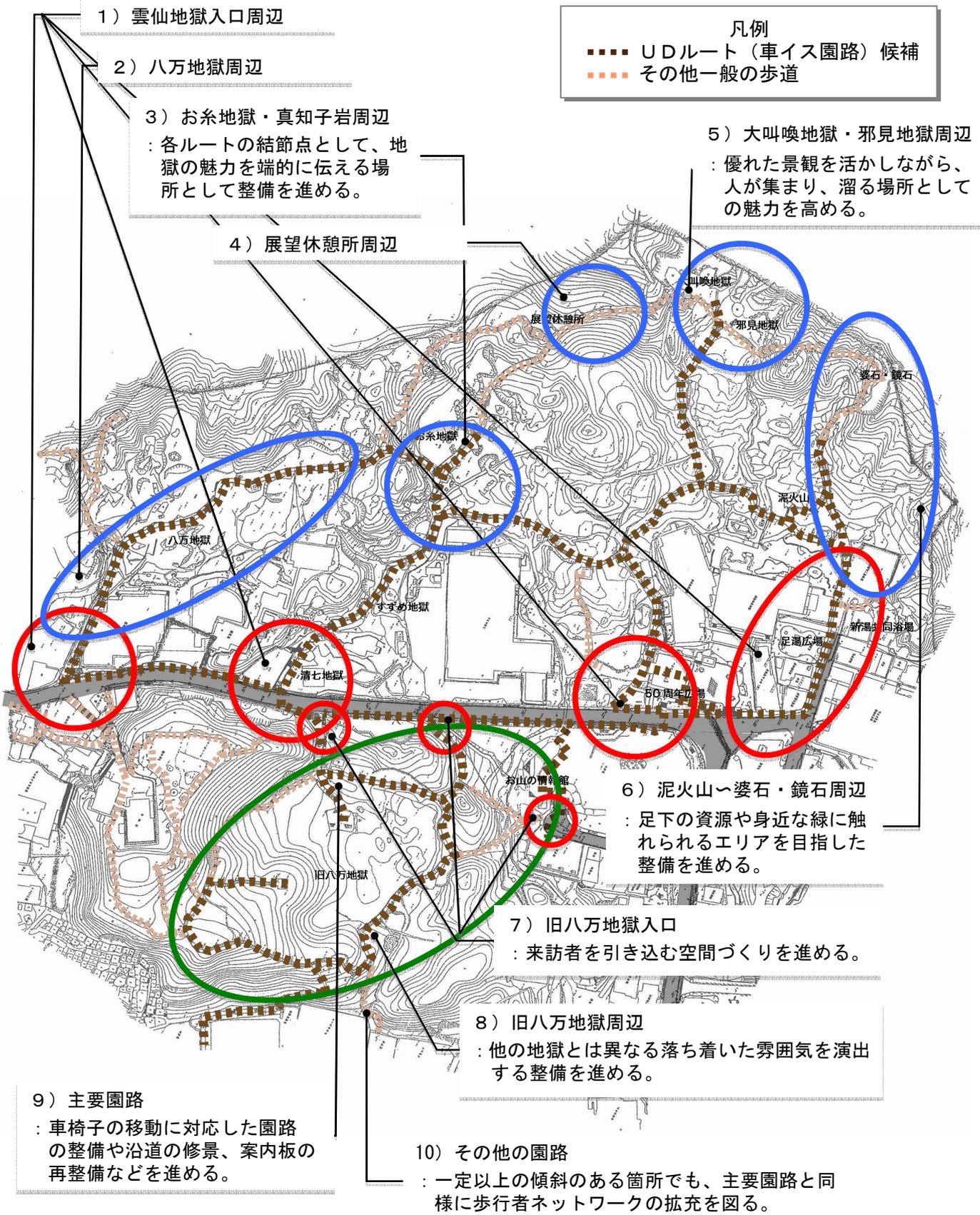


●五感アイコン（例）



●源泉・爛つけ設置者名板（例）

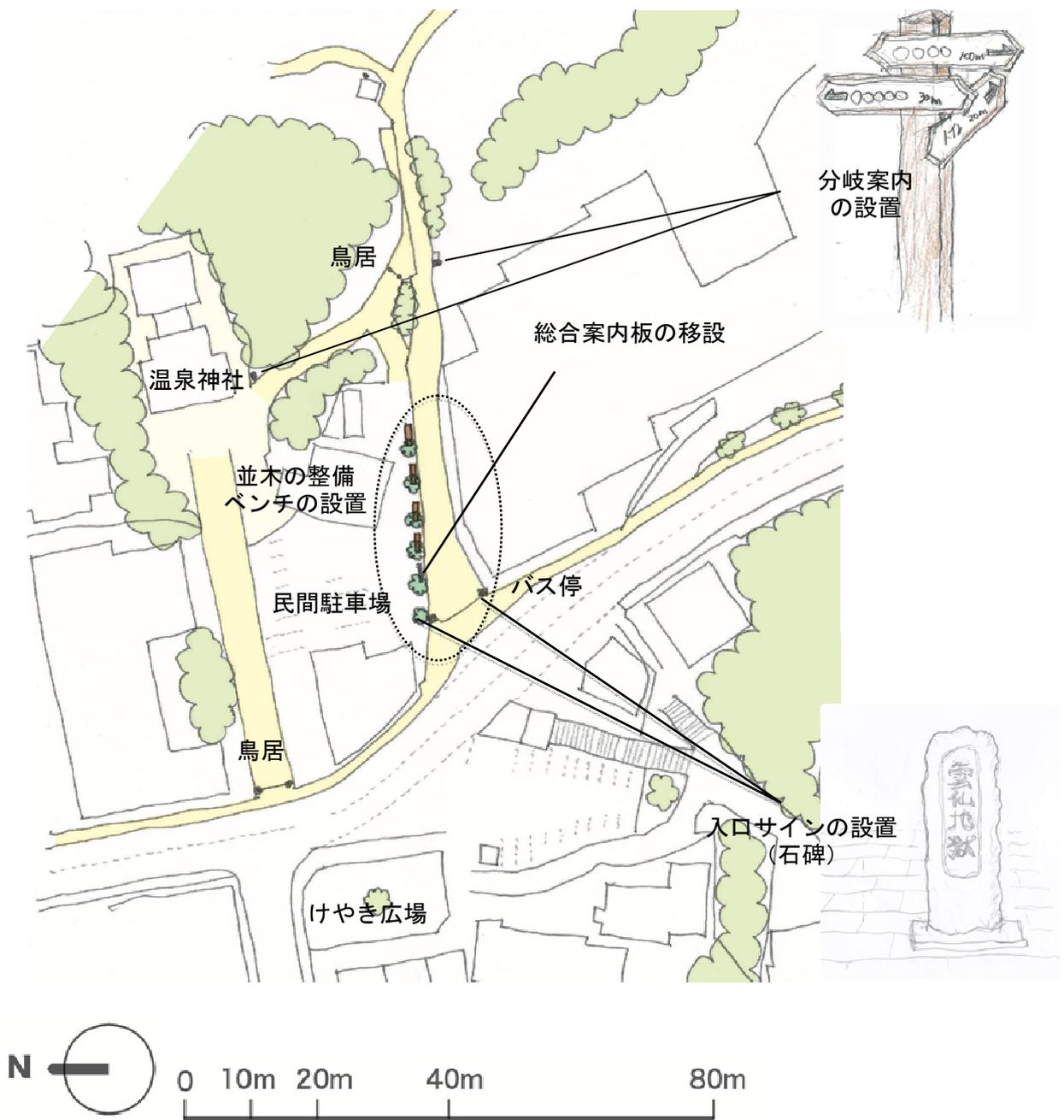




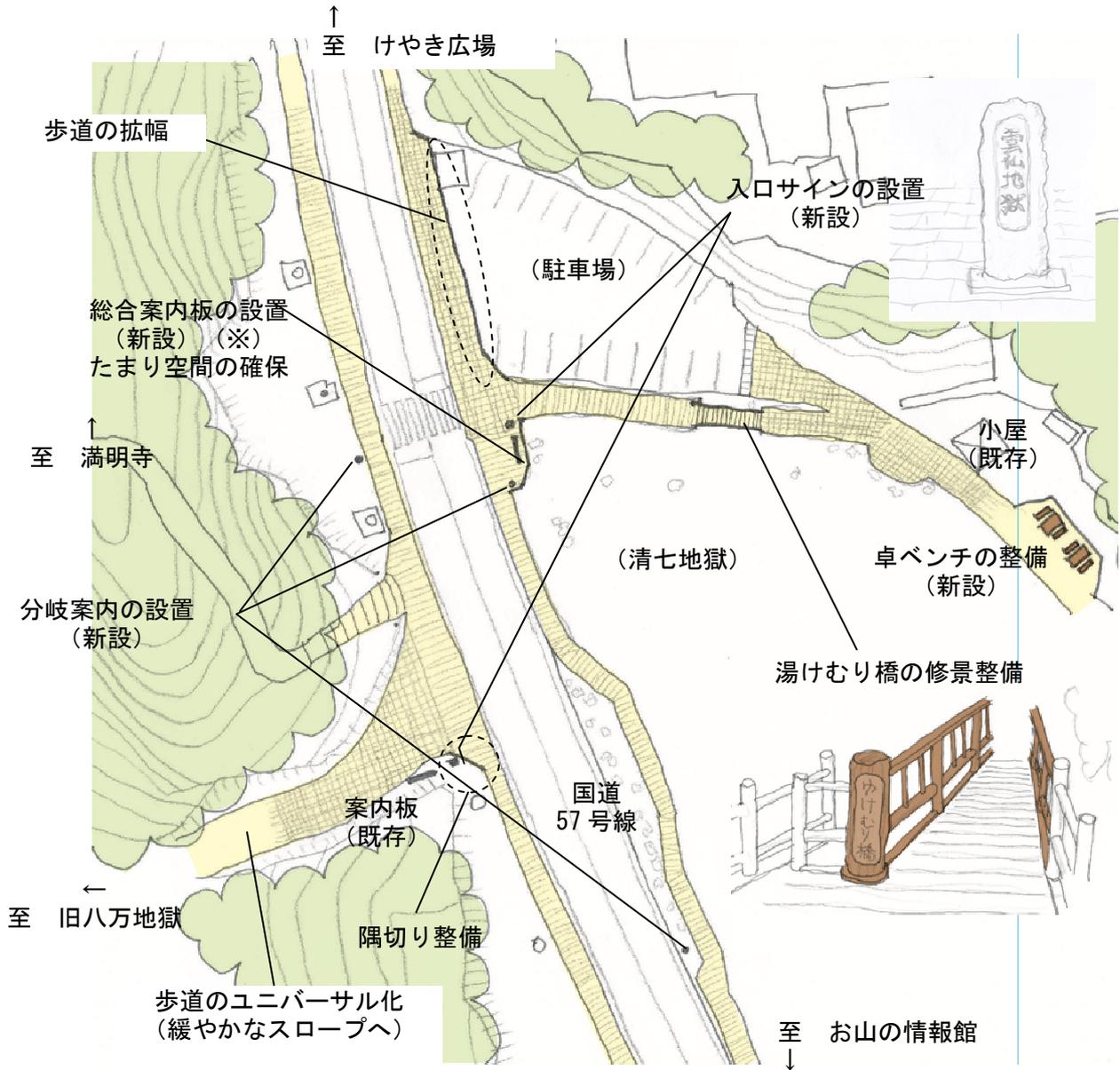
### 3) 主要箇所の整備イメージ

#### < 1) 雲仙地獄入口周辺 (温泉神社周辺) >

- ・ バス停の前の広場的空間に石畳と馴染むサインを設置して地獄入口の明確化を図る。
- ・ 通路に隣接する民間敷地と協力して、沿道に並木やベンチ等を設置し、入口から人を奥へ引き込む空間づくりを進める。
- ・ 通路入口には地獄の全体像が把握出来、地獄の奥への誘導と滞在を促すような案内板を設置して、地獄へ向かう人が安心して散策や回遊、滞在が楽しめるよう配慮する。

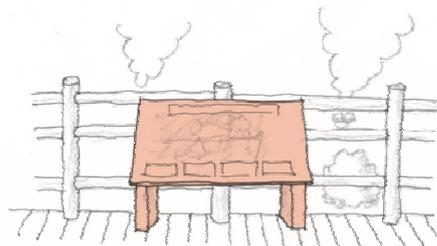


< 1) 雲仙地獄入口周辺（清七地獄）／7) 旧八万地獄入口 >



- ・ 来訪者の認知を高め、湯けむりが漂う雲仙地獄の主要な入口にふさわしい空間として、入口サイン（石碑）の新設、入口空間の拡張などを進める。
- ・ ゆけむり橋は記念撮影スポットとして修景整備する。
- ・ 特に清七地獄側の入口では、歩道の拡幅や案内板の設置された溜まり空間の整備などを進める。
- ・ 周辺には施設が少ないため、特に横断歩道の周辺や道路反対側の入口が見える箇所には「〇〇まで△m」の分岐案内を設置し、歩行者を適切に誘導する。
- ・ 旧八万地獄の入口サインは来訪者を奥へ誘導するようなものとなるよう工夫する。

※ 総合案内板は、地獄景観を妨げないよう盤面を低く抑える。

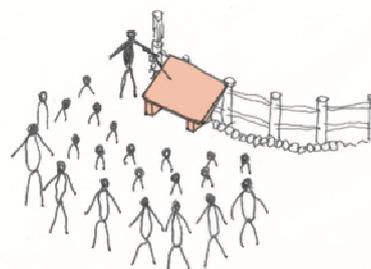


< 1) 雲仙地獄入口周辺 (50 周辺広場周辺) >



- ・ 地獄の入口であることを示すサイン (石碑) の設置、広場入口の植え込みの撤去、一休みできるベンチの設置により、広場の前を通る人を中へと誘い込むことを目指す。
- ・ 広場に入ってきた人、地獄へ向かう人のために、適切な位置に案内板を設置し、広場の中で修学旅行や地獄巡りの事前レクチャー等の実施ができるスペースを整える。(※)
- ・ 自転車で移動する人のために、広場内に駐輪場所の確保を検討する。

※ 大勢の人に一度に説明を行うことができるよう広場の中の総合案内板を設置する

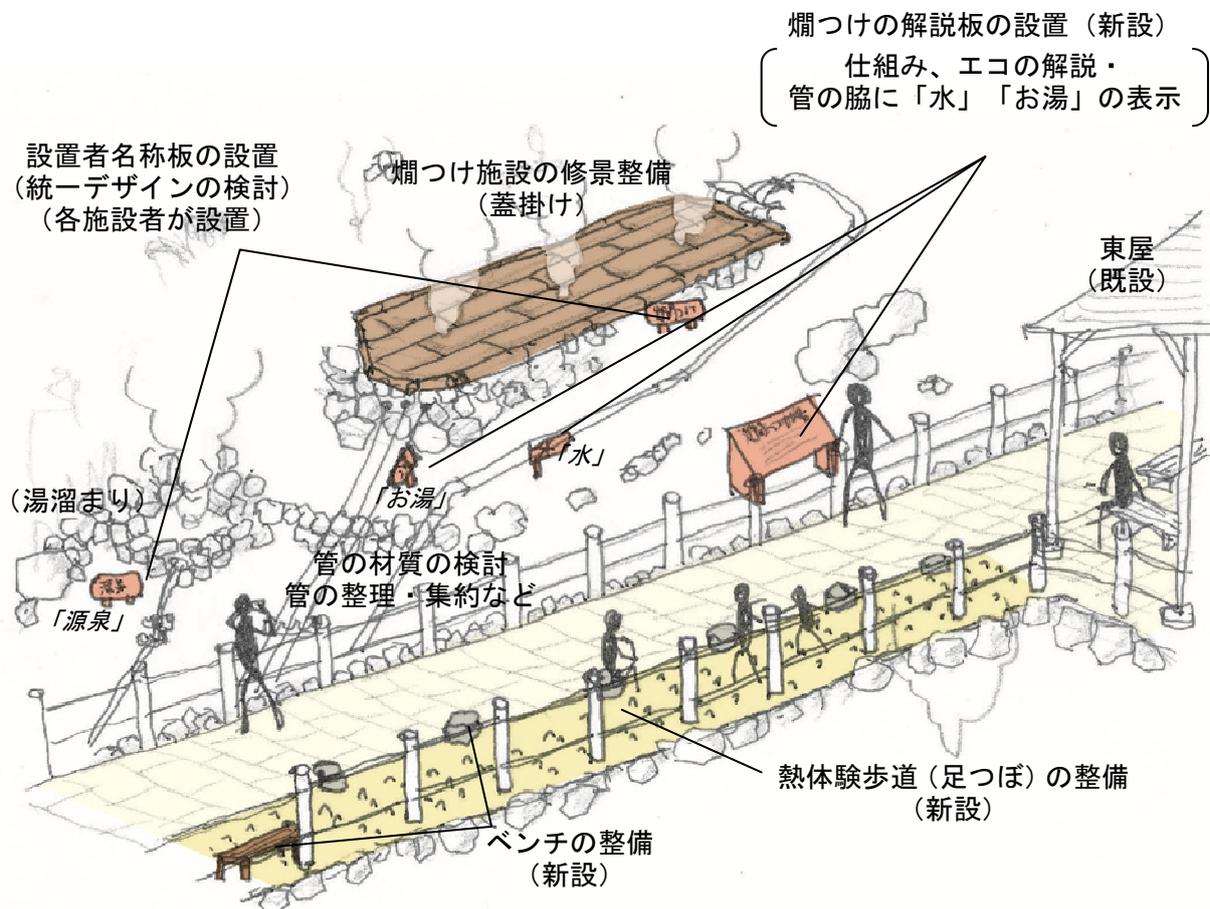


### < 1) 雲仙地獄入口周辺 (新湯共同浴場周辺) >

- ・ 人が集まるバス停前の広場の周辺に総合案内板や地獄の入口であることを示すサイン (石碑) を設置し、多くの人を地獄や足湯広場、新湯共同浴場へと誘導する。
- ・ 地獄入口及び新湯共同浴場までの間には、案内板などを適宜設置して長い距離を迷うことなく歩いてこられるよう配慮する。
- ・ ルート上の道路では、歩道の拡幅や舗装の改修により車椅子などでも安全で快適に移動できるような整備を進める。



< 2) 八万地獄周辺ほか（爛つけ場の整備イメージ） >



- ・ 自然と共生する知恵、エコ技術である爛つけ設備のPRや景観美化など、地熱を体感できるエリアづくりを施設設置者、関係者と共に進める。
- ・ 爛つけ場や源泉自体の修景整備は設置者が行うこととし、木製の蓋等をかける、爛つけ場所から伸びる管路を整理するなど観光客に見せることを意識したものとする。また、統一デザインによる設置者名板を設置し、日頃の整理整頓、美化を促進する。
- ・ 修景とあわせて、仕組み・エコの解説板の設置や解説板とセットで見える場所に管路脇に「水」「お湯」を表示し、爛つけや地熱について学習できる場所などを設けて観光客に新しい体験を提供する。
- ・ 他に、なだらかで見通しの良い園路を活かした子供も楽しめるような熱体験歩道の整備や、親が子供をみながらゆっくり休憩できる東屋や靴の脱ぎ着できるベンチなどの環境整備を進める。

### <3) お糸地獄～真知子岩周辺>

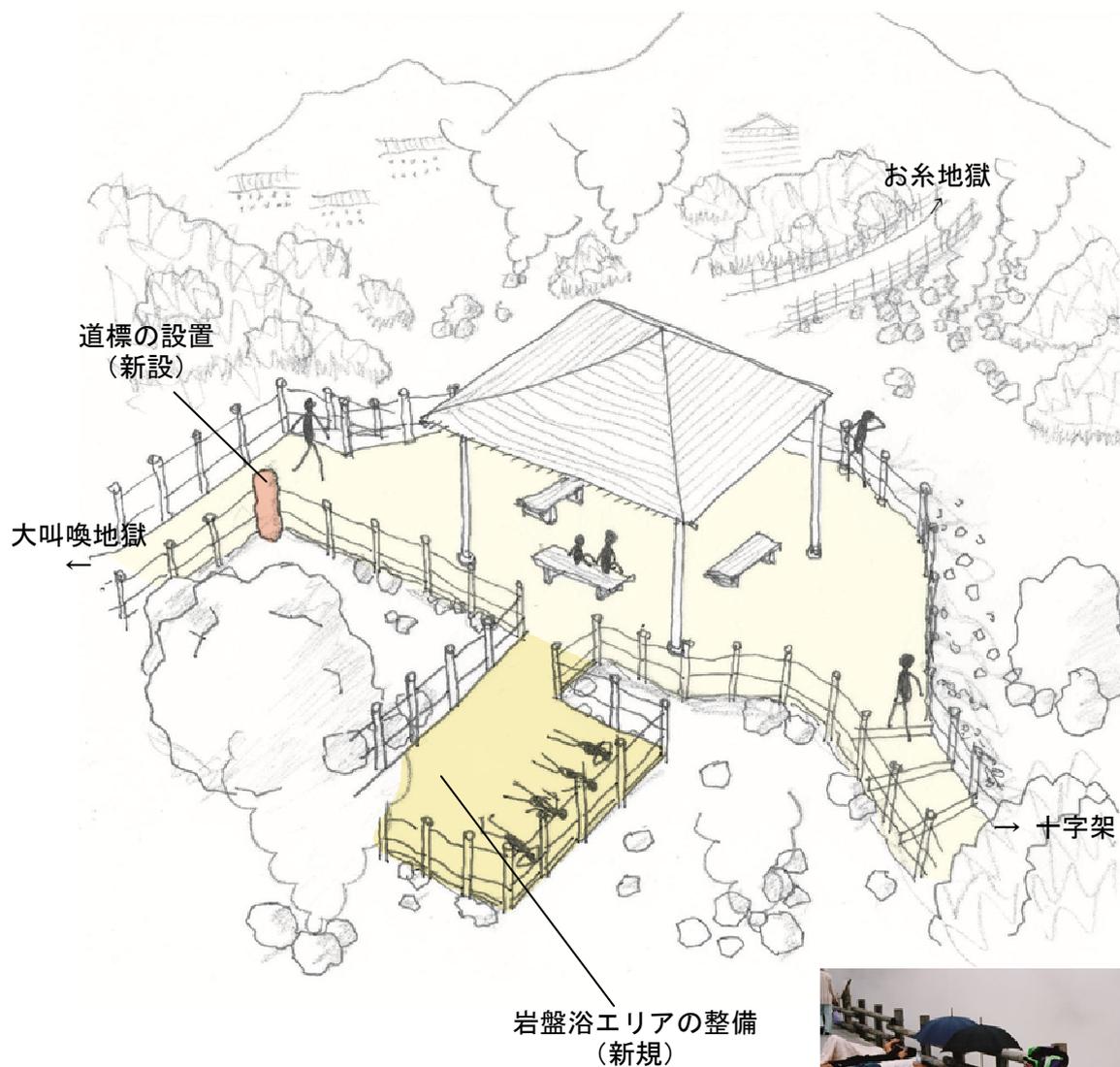


- ・ 園路の交差部分を拡幅し、多くの人が集まり、溜まることができる空間を整備する。
- ・ 玉子小屋の移設と園路部分の拡幅により蒸し場の整備や蒸した野菜等を食べることができる卓ベンチを設置などを進め、蒸し場を中心としたアクティビティの提供を目指す。(※1)
- ・ 玉子小屋西側の分岐部分では、案内板や分岐案内を設置し、地獄内のスムーズな回遊を誘導する。
- ・ 園路からの観察が困難となっているお糸地獄内の泥火山の周辺には、張り出しデッキ等を検討する。
- ・ 地獄の各ルートの結節点であり利用拠点として、熱体験歩道や岩盤浴、足岩盤浴の整備も検討(※2)し、蒸し場とともに地獄の体験・体感機能の中心とする。

※1 玉子小屋の営業については、個人の営業許可から蒸し場も含めた雲仙市の園地事業とする方向で検討する。

※2 雨天時の利用も考え、半分は小屋がけ等も検討する。

#### < 4 ) 展望休憩所周辺 >

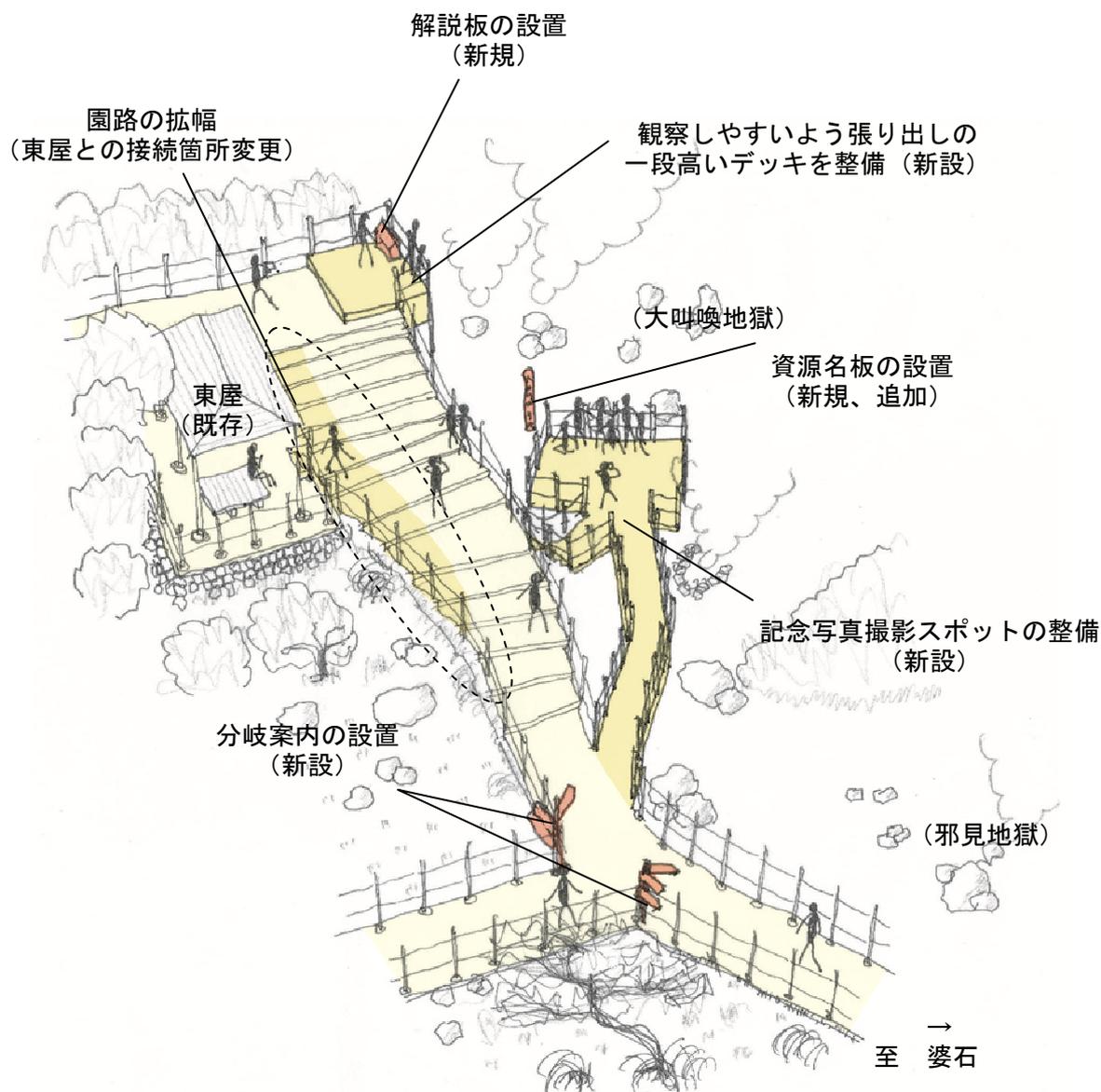


<参考> 玉川温泉



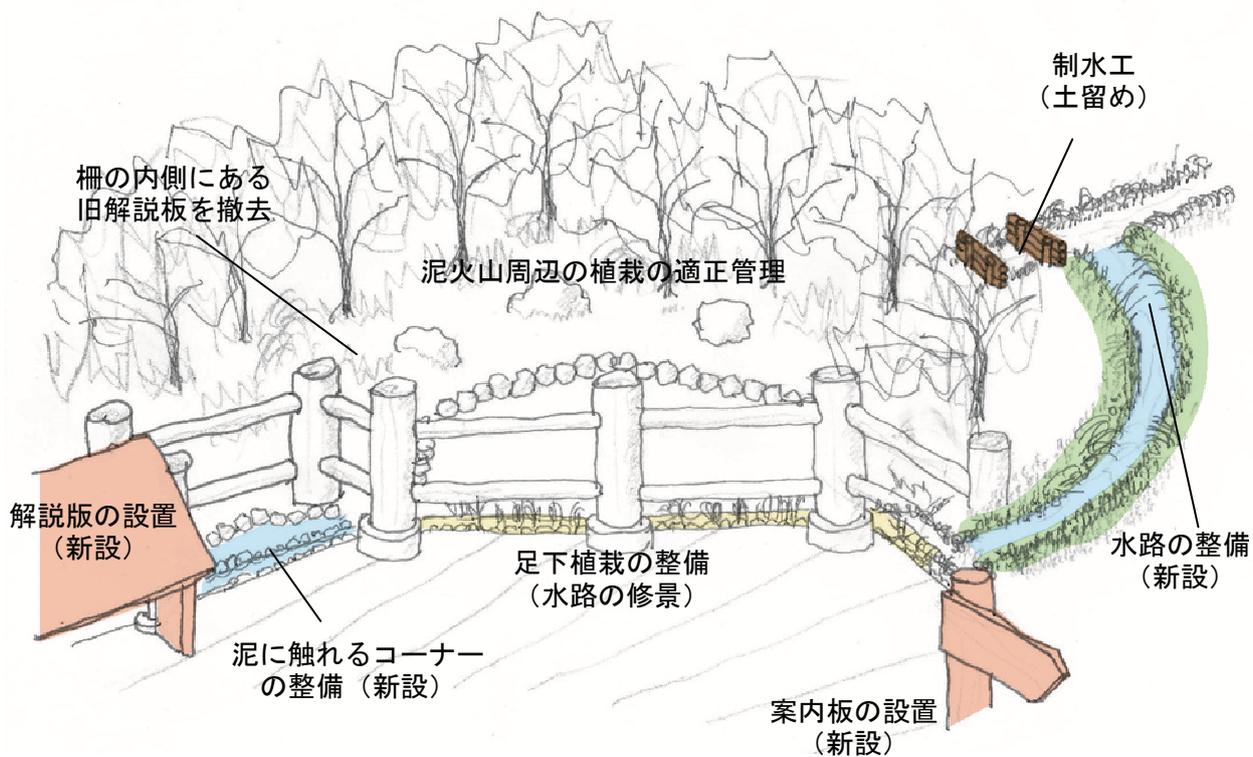
- ・ 休憩しながら楽しめる新しいアクティビティとして、岩盤浴施設の整備を検討する。(※)
  - ・ 新たに整備する施設は、岩盤浴をしながら自然の景色や涼風を楽しめるようなものとし、宿泊施設内での体験との差別化を図る。
  - ・ 岩盤浴を行う場所には、熱体験歩道や温度計（アナログ）の設置など地熱を総合的に体感できるような施設整備を検討する。
- ※ 雨天時の利用も考え、半分は小屋がけ等も検討する。

<5) 大叫喚地獄・邪見地獄周辺>



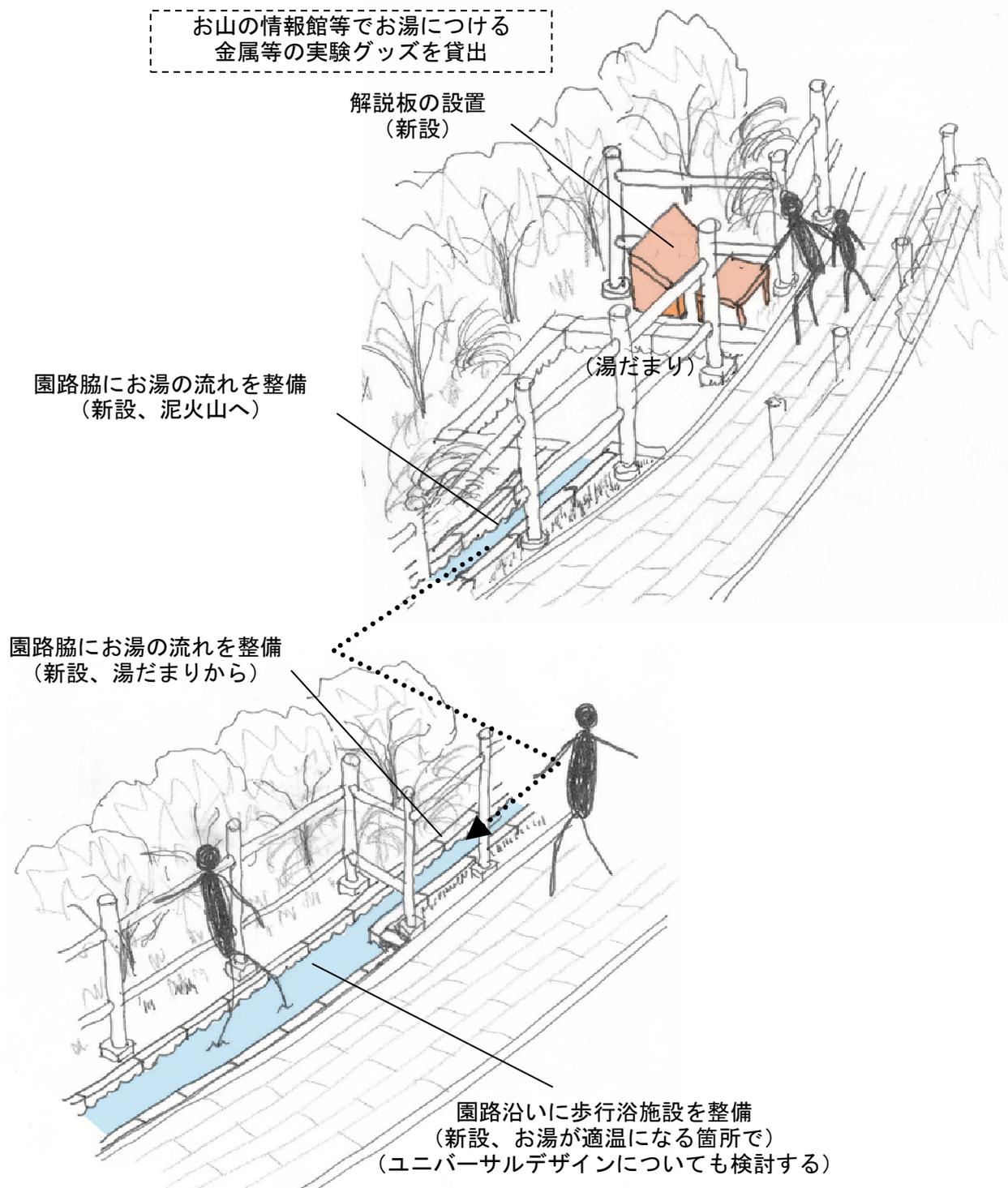
- ・ 大叫喚地獄の東屋に面する箇所の園路を拡幅し、記念撮影の多い大叫喚地獄周辺の混雑の解消を図るとともに、東屋との接続を改良して、人が集まり溜まる空間にふさわしい空間として整備を図る。
- ・ 資源名板の新設や園路の延長拡幅により記念写真撮影スポットを整備する（ユニバーサルデザインについても検討する。）。
- ・ 地獄を観察しやすいよう張り出しの一段高いデッキや解説板を整備した観察スポットを整備する。
- ・ 園路の分岐部分（突き当たり部分）に案内サインを設置して、地獄巡りの最深部にあたる当該箇所と周辺との連絡の向上を図る。

<6) 泥火山～婆石・鏡石周辺（泥火山）>

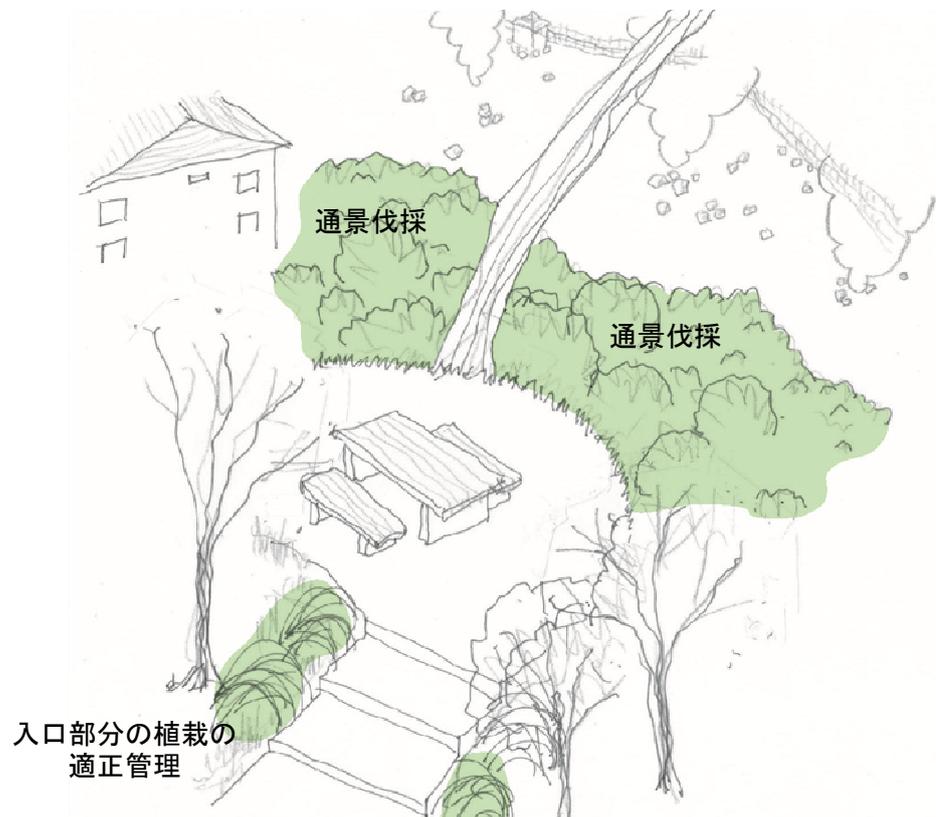
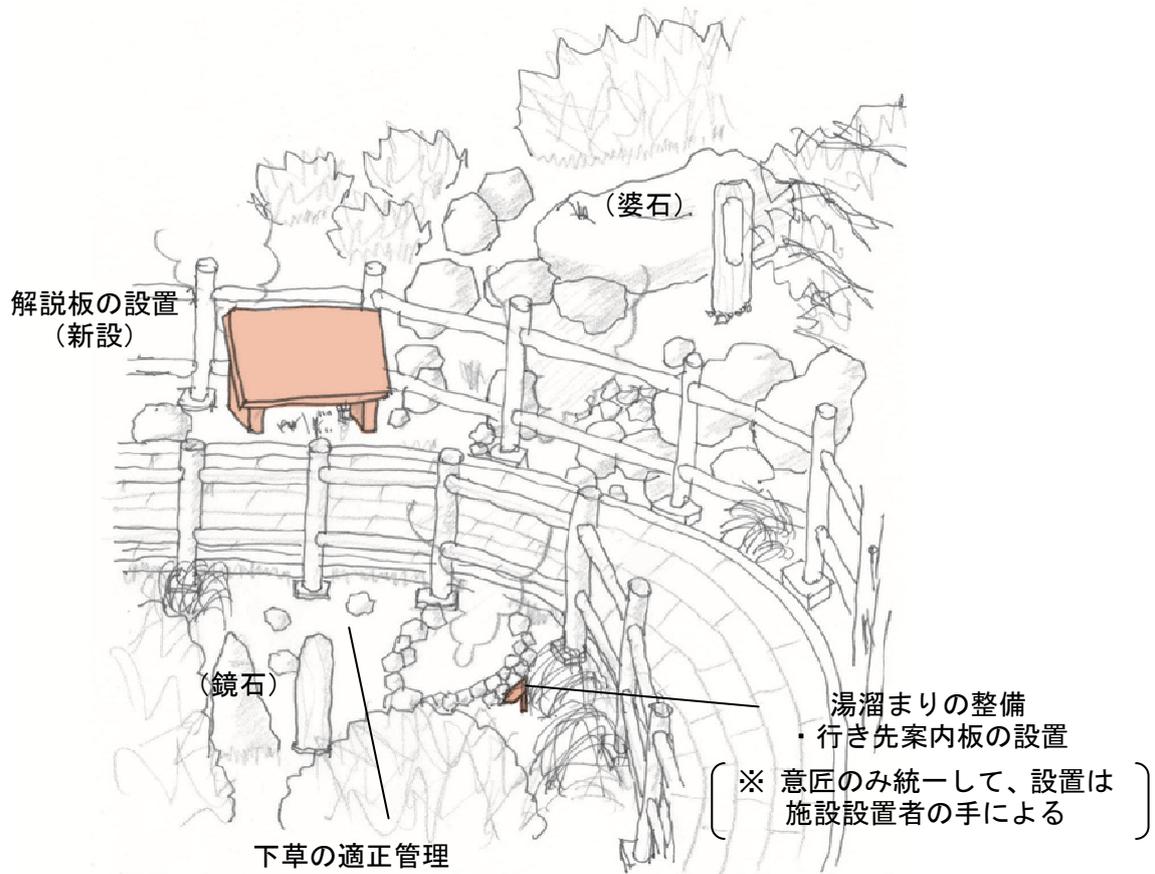


- ・ 周辺の園路から見える位置に解説板（泥火山の希少性や学術的価値、泥火山ができる仕組み、泥の成分など）を設置する、案内板を設置することなどにより人の流れを誘導する。
- ・ 観察デッキを一部拡張し、泥火山を形成する泥に触れることができる体験コーナーを新設する（手洗いは既存の水路の活用／泥火山～婆石・鏡石途中の湯だまりの導入を検討する）。
- ・ 資源周辺の景観向上のため植栽の適正管理をあわせて実施する。
- ・ 泥火山の周囲では、制水工の実施や排水用の水路の整備などにより、泥火山への雨水と土砂の直接の流入を防ぐ。

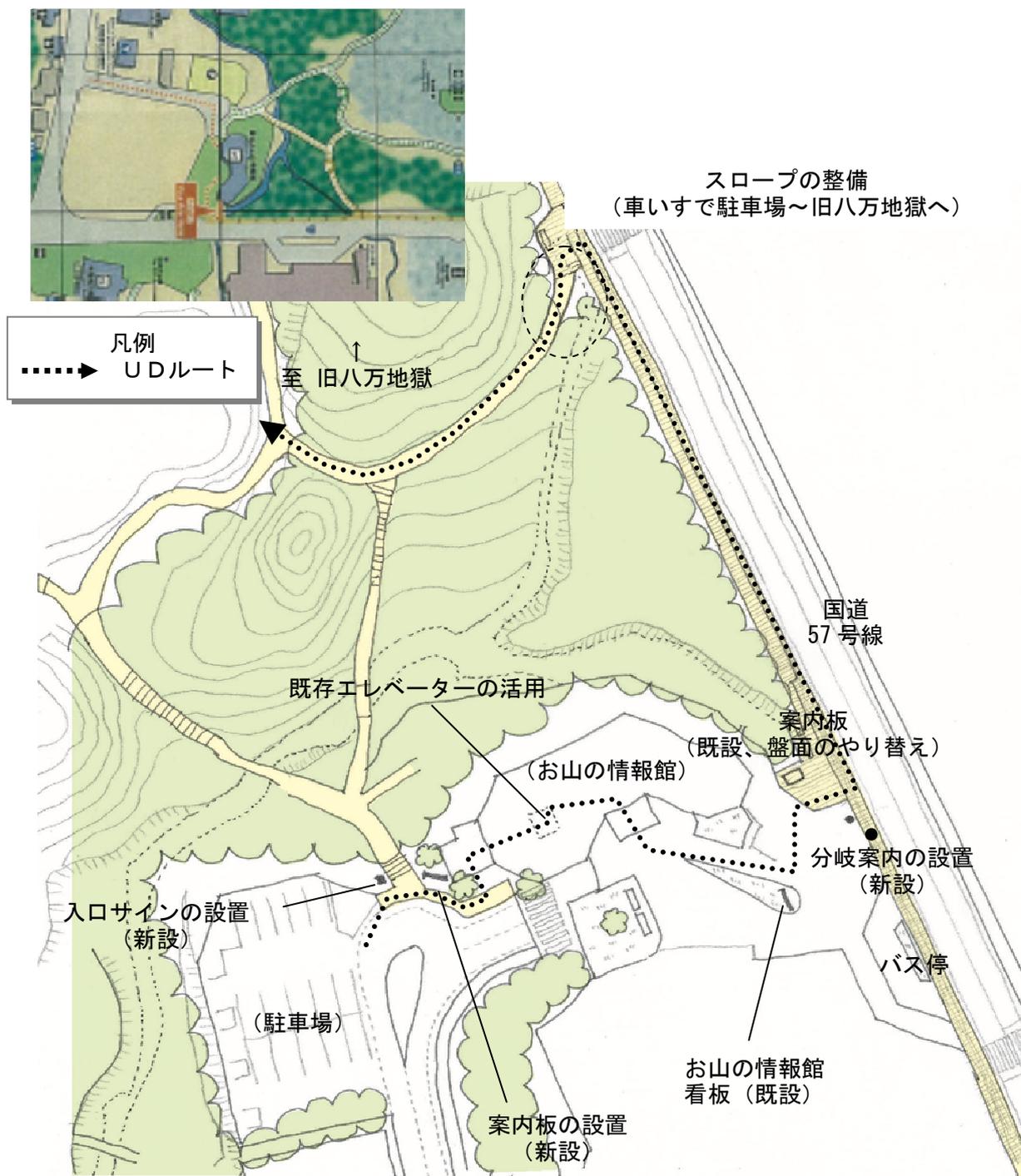
<6) 泥火山～婆石・鏡石周辺（湯だまり）>



< 6 ) 泥火山～婆石・鏡石周辺 ( 婆石・鏡石 ) >



< 7 ) 旧八万地獄入口 (お山の情報館周辺) >



- 国道、駐車場の双方から旧八万地獄の入口が認識しやすいよう、案内板や分岐案内、入口サインを設置して、来訪者を誘導する。
- 下りの階段、上りの階段が続く園路の段差を解消し、車いす利用者等が駐車場から旧八万地獄まで快適に移動できるルートを確認する。

## (2) 温泉街中心部のリフレッシュ整備

### 1) 整備方針

古湯と新湯、地獄と原生沼をつなぐ雲仙温泉の文字通り中心に位置し、けやき広場や山の上には雲仙のルーツである満明寺がある。また、芝生の児童遊園、雰囲気の良い八十八ヶ寺巡りなどが存在するが、現在はあまり活用されておらず立ち寄ってみたいと思うような場所にはなっておらず、足を運ぶ人は少ない。このような現状を踏まえて、以下のような方針のもと温泉街中心部のリフレッシュ整備を進めることとする。

- 視線のつながりの確保
- 動線のつながりの確保 (古湯と新湯、地獄と商店街、自然と歴史など)
- 自然と歴史のつながりの確保



雲仙温泉の玄関口にふさわしい誘導起点の空間として、まち全体の回遊性の向上へ寄与

### <現在の温泉街中心部の様子>

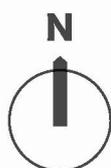


### 2) 整備項目

温泉街中心部リフレッシュ整備における主な整備内容は以下の通り。整備箇所については、次頁の地図を参照のこと。

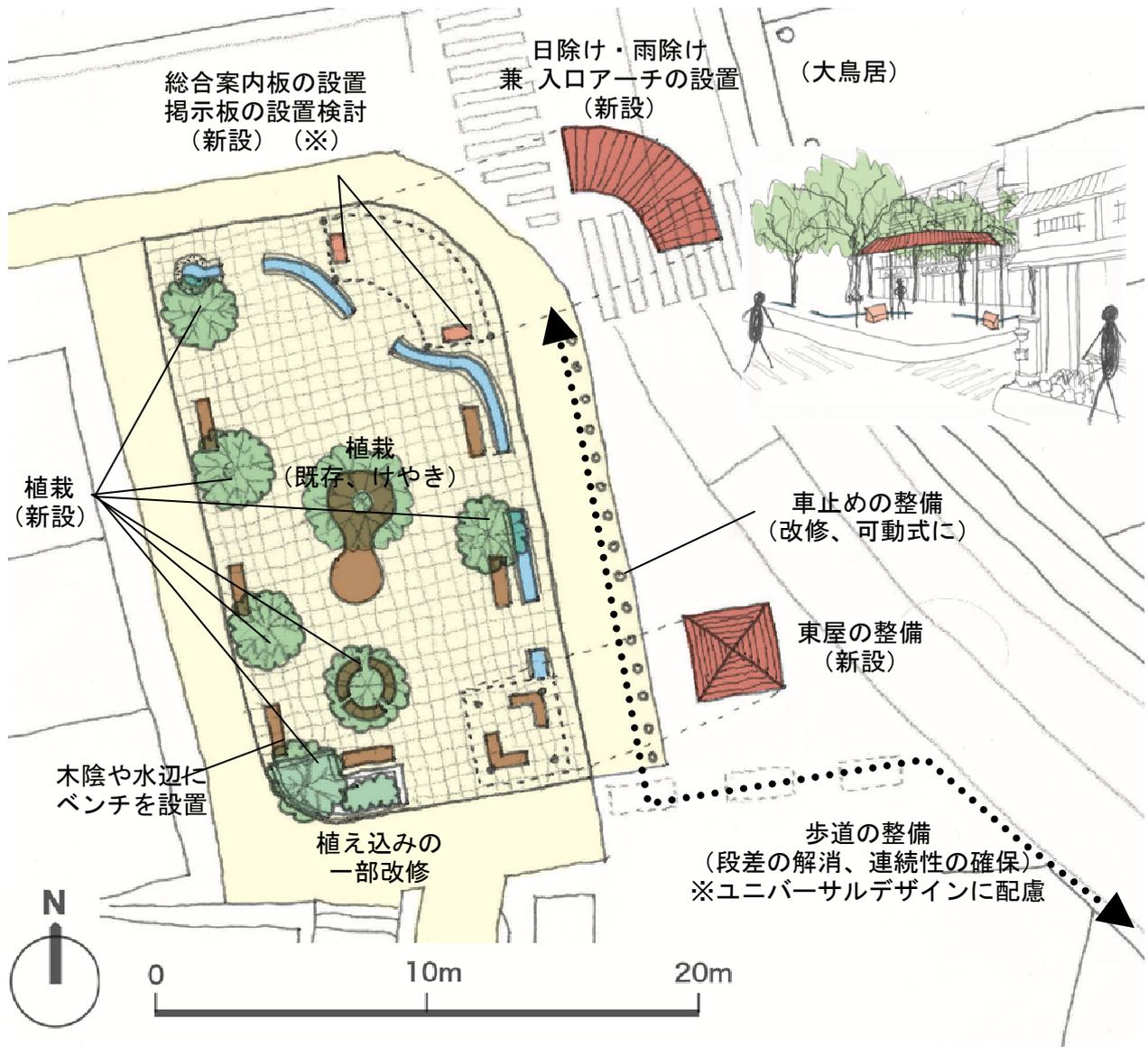
| 箇所         | 主な整備内容   |
|------------|--|
| 1) けやき広場周辺 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・案内板の設置</li> <li>・木陰を生み出す樹木の設置、東屋やベンチの設置</li> <li>・舗装の再整備 (段差等の解消、固く冷たい印象から暖かく柔らかな印象へ)</li> <li>・せせらぎの整備 (水の流れる景色の演出)</li> <li>・途切れた歩道の整備</li> <li>・満明寺駐車場周辺の修景等の検討 など</li> </ul> |
| 2) 児童公園周辺  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・案内サインの設置、景観や歴史の解説板の設置 (山に名前を付けて認知度を高める)</li> </ul>   |

- ・階段の改修（路面補修、手すりの設置、狭隘部分の拡幅）
- ・新しい階段ルート of 整備（下から見える、上ってみたいと思わせる）
- ・山頂部の見通しの確保（下草刈り、枝払い、通景伐採等）
- ・展望台や休憩場所の整備（ベンチや東屋の設置）
- ・展望デッキの整備（温泉街周辺（新湯、地獄、橋湾、絹笠山、矢岳、妙見岳、原生沼、おしどりの池、商店街等）が見渡せるビュースポット整備）
- ・歩行者空間の整備（飛び石や柵の設置）
- ・雲仙らしい植物の配置（季節毎に雲仙らしい花が咲き、野鳥が訪れる季節ごよみ見本園的な利用を意識）



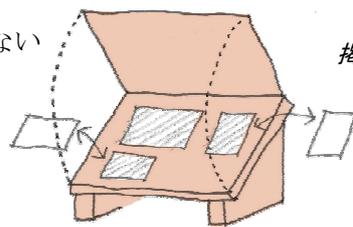
### 3) 主要箇所の整備イメージ

#### < 1) けやき広場の再整備 >



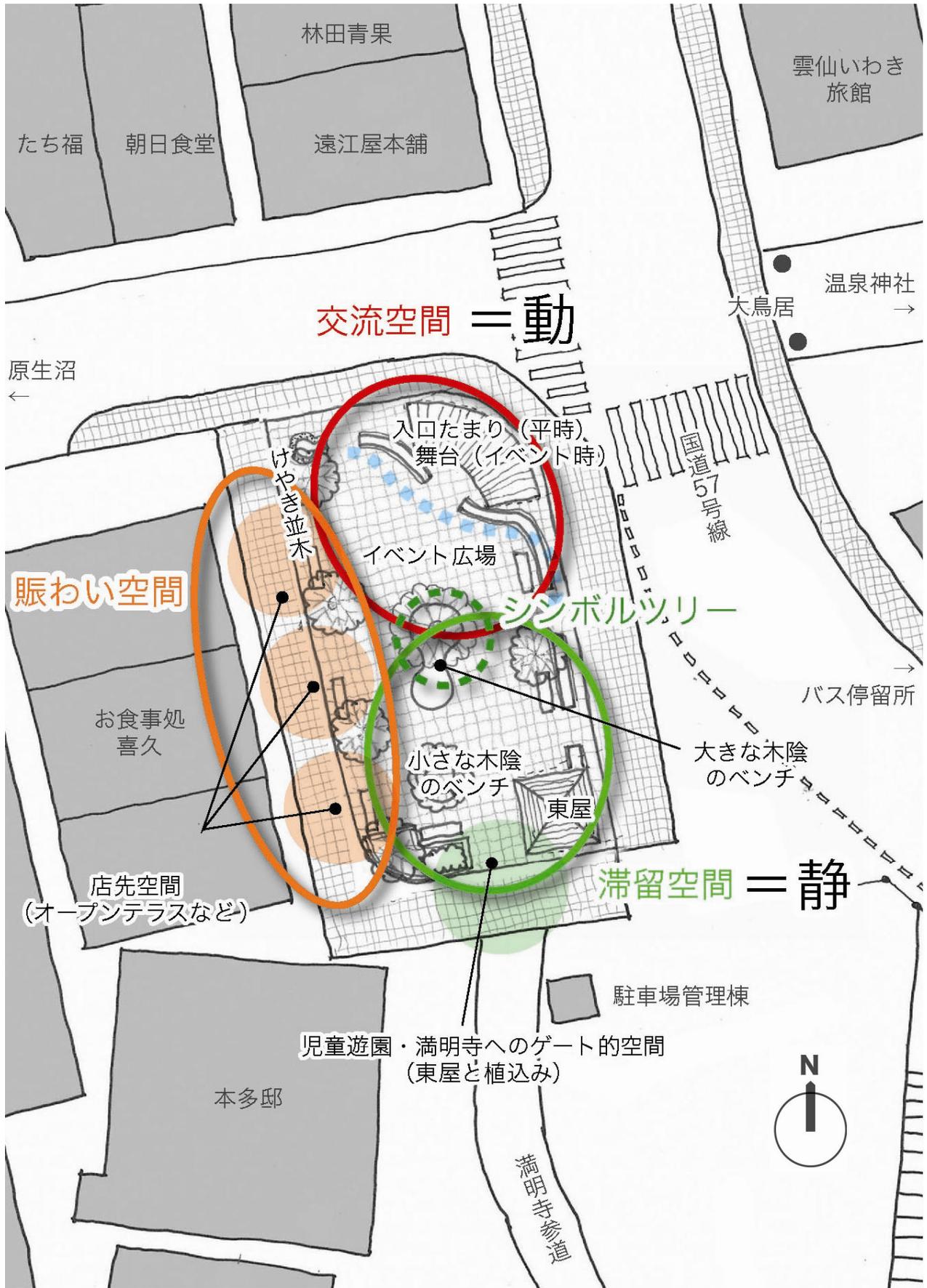
- ・ 多くの人が行き交う温泉神社交差点に面して、日差しや雨を気にせずゆっくり案内板を眺めることができる溜まり空間を設けて、広場の「交流機能」を強化する。
- ・ 利用者に緑陰を提供する植栽（既存のけやきや紅葉するもみじなどを検討）、座って一休みできる東屋やベンチを設置し、広場の「休憩機能」を拡充する。
- ・ 屋根の架かる入口部分を舞台に見立てこれを囲むようにオープンスペースを設けて、イベントにも活用できる「広場機能」を確保する。
- ・ 敷地のフラット化、国道側から歩行者を呼び込む水路の整備、店舗前の通路の利用を促す並木の配置などにより周辺からの「アクセス性能」の向上を図る。
- ・ また、ここを起点として、商店街や児童遊園、原生沼、地獄などへと向かうような「回遊機能」を確保する

※ 総合案内板、掲示板は誘導視線を妨げないよう高さを抑えたものとする。

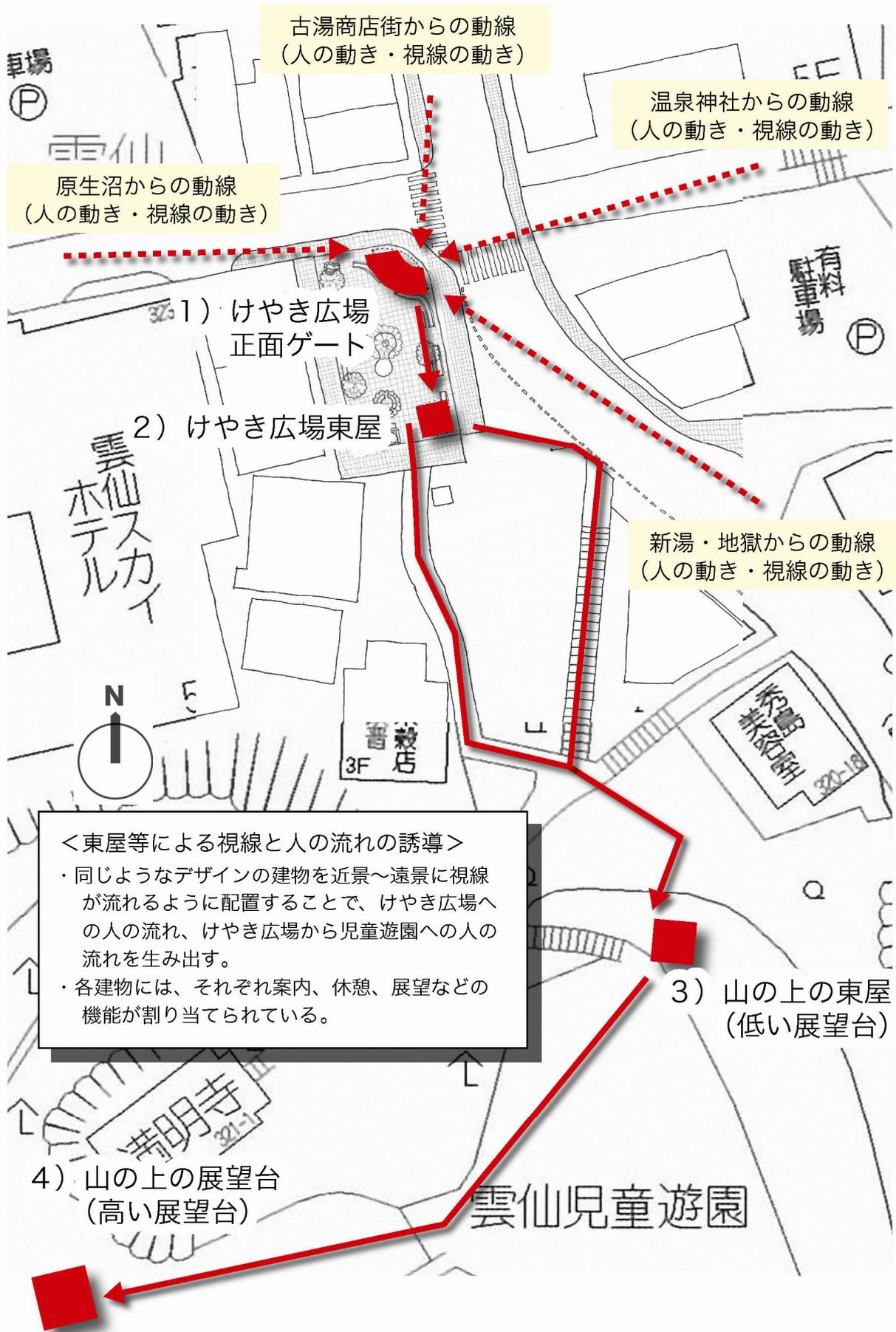


掲示内容の差し替えができる機能も検討

〈けやき広場の再整備〉-考え方の補足



<参考> けやき広場と児童遊園のつながり



<東屋等による視線と人の流れの誘導>

- ・同じようなデザインの建物を近景～遠景に視線が流れるように配置することで、けやき広場への人の流れ、けやき広場から児童遊園への人の流れを生み出す。
- ・各建物には、それぞれ案内、休憩、展望などの機能が割り当てられている。

< 2 ) 児童公園の再整備 >



- ・ 歩行者の目を引く新しい階段の整備やけやき広場やバス停、清七地獄から児童公園（東屋、展望台）へと連なる建屋の配置、既存の階段の再整備など観光客が公園まで上ってみたいと思うような仕掛けを用意する。
  - ・ 園内を周回する歩行ルート of 整備やうっそうと生い茂った低木や下草の整理、東屋や芝生の広場などを配置し、誰もが親しみやすい公園として再整備を図る。
  - ・ 眺望が優れた地点への展望デッキや展望台の整備、園路沿いへの雲仙の特徴的な植栽の配置など、山の上全体が景観を楽しみながら雲仙の見所である自然、歴史にアクセスする動機付けを行う場所とする。
  - ・ 365日その季節の雲仙の花が咲き、バードバスや実のなる樹木の配置による野鳥観察などもでき、お山の情報館やガイドによるミニレクチャーの場として活用できる園地、園路とする。
- ※ 雲仙らしい樹木、草花の植栽は、住民の一木一草運動と連携して実現する。また、写真写りや訴求力の高い見せ方の工夫、開花宣言などのソフト・情報発信とセットで考える。

### (3) 白雲の池リフレッシュ整備

#### 1) 整備方針

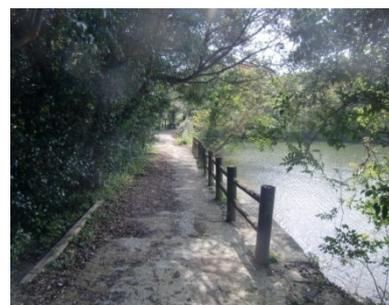
外国人の避暑地時代は「天幕ホテル」などと称され、水辺の散歩やボート遊び、キャンプ、ピクニック、冬は池にはった氷の上でのスケートなどの多様なアクティビティが楽しめる場所であった。しかし現在は、場所の分かりづらさや施設の古さ、周囲の鬱蒼とした森などが暗く怖い印象を与えているほか、アクティビティ自体の魅力不足、PR 不足とも重なって人を寄せ付けない場所となっている。このような課題を踏まえて、以下のような方針のもと白雲の池のリフレッシュ整備を進めることとする。

- 温泉街との連絡性の向上
- 安心して明るいろゾート空間の演出
- 新しいアクティビティのデザイン



5～10年で雲仙のアクティビティのメッカに／利用者を年間1,000人から10,000人へ

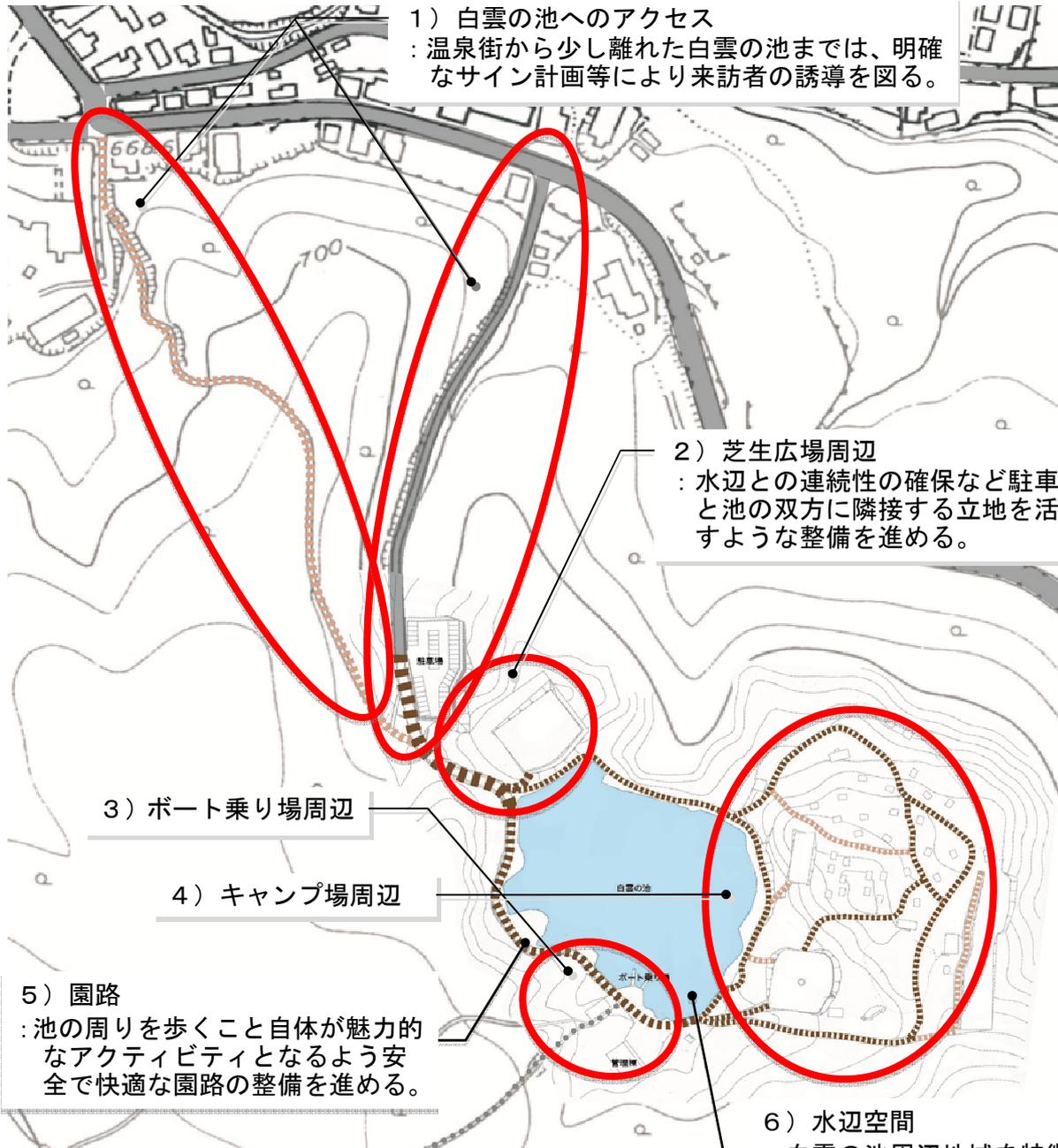
#### <現在の白雲の池の様子>



## 2) 整備項目

白雲の池リフレッシュ整備における主な整備内容は以下の通り。整備箇所については、次頁の地図を参照のこと。

| 整備箇所                           | 主な整備内容  |
|--------------------------------|---|
| 1) 白雲の池へのアクセス<br>(国道 57 号、遊歩道) | <ul style="list-style-type: none"> <li>案内サインの設置、遊歩道道標の設置</li> <li>遊歩道沿いの植栽の枝払い、剪定、伐採による明るい入口の演出</li> <li>入口ゲートの設置 (国道 57 号有明ホテル前)</li> <li>歩道、車道の改良</li> <li>自転車での利用も検討</li> <li>園路の再整備 (駐車場から池まで、車いす対応)</li> </ul>   |
| 2) 芝生広場周辺                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>水辺との連続性の確保 (斜面の整備、斜面部分の植栽の伐採)</li> <li>カヌー・カヤック等の搬入経路の確保</li> </ul>  |
| 3) ボート乗り場周辺                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>管理棟の移設 (跡地を車両の転回場、荷物の積み替え場所等へ)</li> <li>ボート小屋の移設</li> <li>案内板の設置</li> <li>栈橋周辺の修景整備</li> <li>芝生広場の整備</li> <li>絹笠山登山道入口の整備 (ベンチ、休憩施設、親水デッキ等整備)</li> <li>焼却炉の撤去</li> <li>ホタルが生息する沢の活用検討</li> </ul>                     |
| 4) キャンプ場周辺                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>管理棟の建替 (ビジターセンター機能、休息喫茶スペース、ユニバーサルトイレ、宿泊用コテージ)</li> <li>炊事場の修復・撤去、バンガロー、テントサイトの撤去</li> <li>斜面整備</li> <li>フィールドアスレチック等の整備</li> <li>下草刈り・枝払い</li> </ul>  |
| 5) 園路                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>ユニバーサル園路の整備 (段差や急傾斜の解消)</li> <li>※全園路のスロープ化、池周りとは主要な動線は車いすが利用可能なものとする (車いす利用可能ルートは舗装色も変更する)</li> <li>下草刈り、枝払い</li> <li>花の咲く・実のなる植物による演出 (野鳥観察)</li> <li>傾いたベンチの修復</li> <li>照明の再整備 (足下照明と必要な明かりの新設と旧設備の撤去)</li> </ul> |
| 6) 水辺空間                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>親水デッキ、ベンチ、休憩施設等の整備</li> <li>通景伐採、ビュースポットの整備</li> </ul>   |



1) 白雲の池へのアクセス  
 : 温泉街から少し離れた白雲の池までは、明確なサイン計画等により来訪者の誘導を図る。

2) 芝生広場周辺  
 : 水辺との連続性の確保など駐車場と池の双方に隣接する立地を活かすような整備を進める。

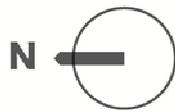
3) ボート乗り場周辺

4) キャンプ場周辺

5) 園路  
 : 池の周りを歩くこと自体が魅力的なアクティビティとなるよう安全で快適な園路の整備を進める。

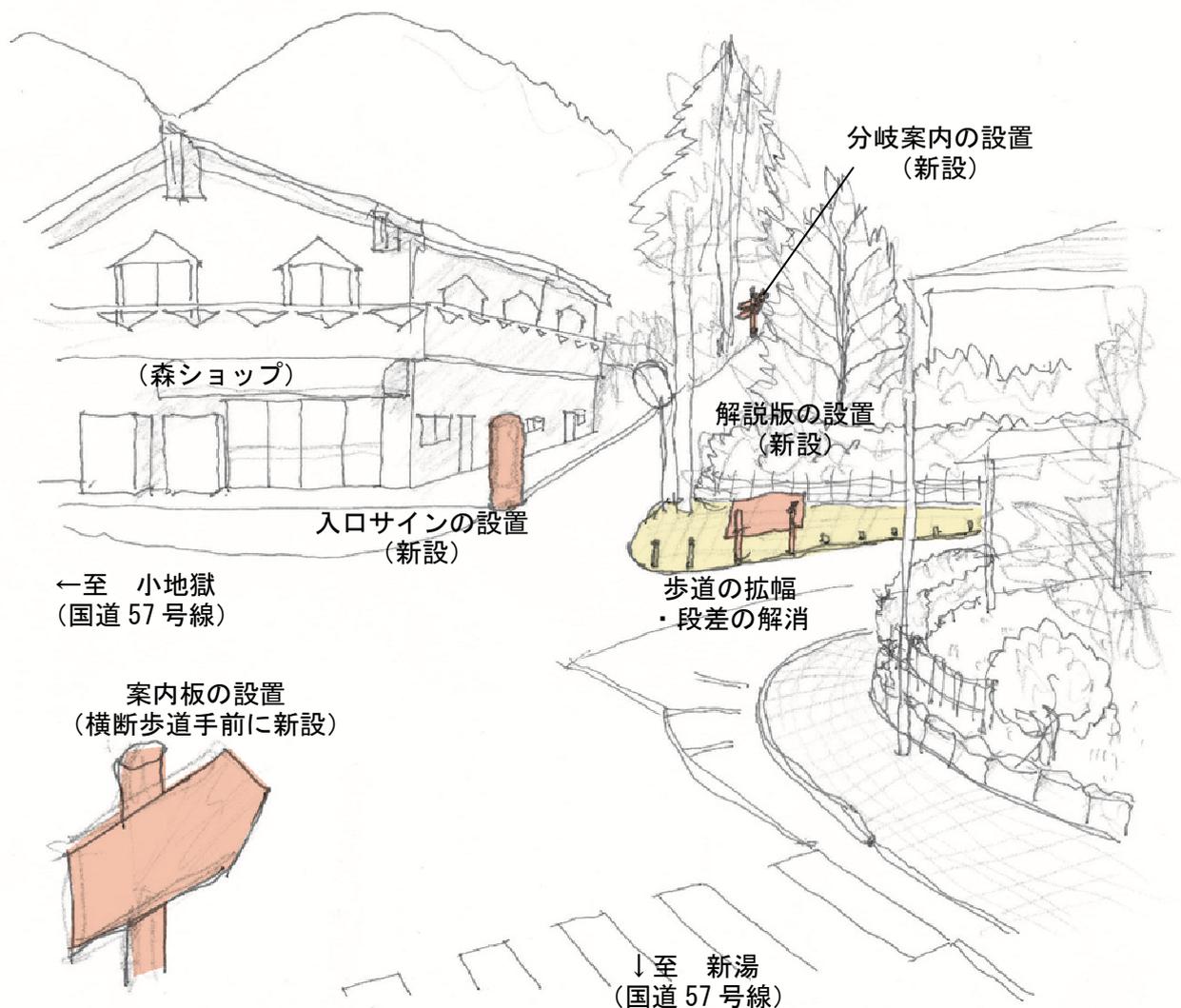
6) 水辺空間  
 : 白雲の池周辺地域を特徴づける自然に親しみやすい水辺整備を進める。

- 凡例
- 車イスルート
  - UDルート
  - ..... その他一般の歩道



### 3) 主要箇所の整備イメージ

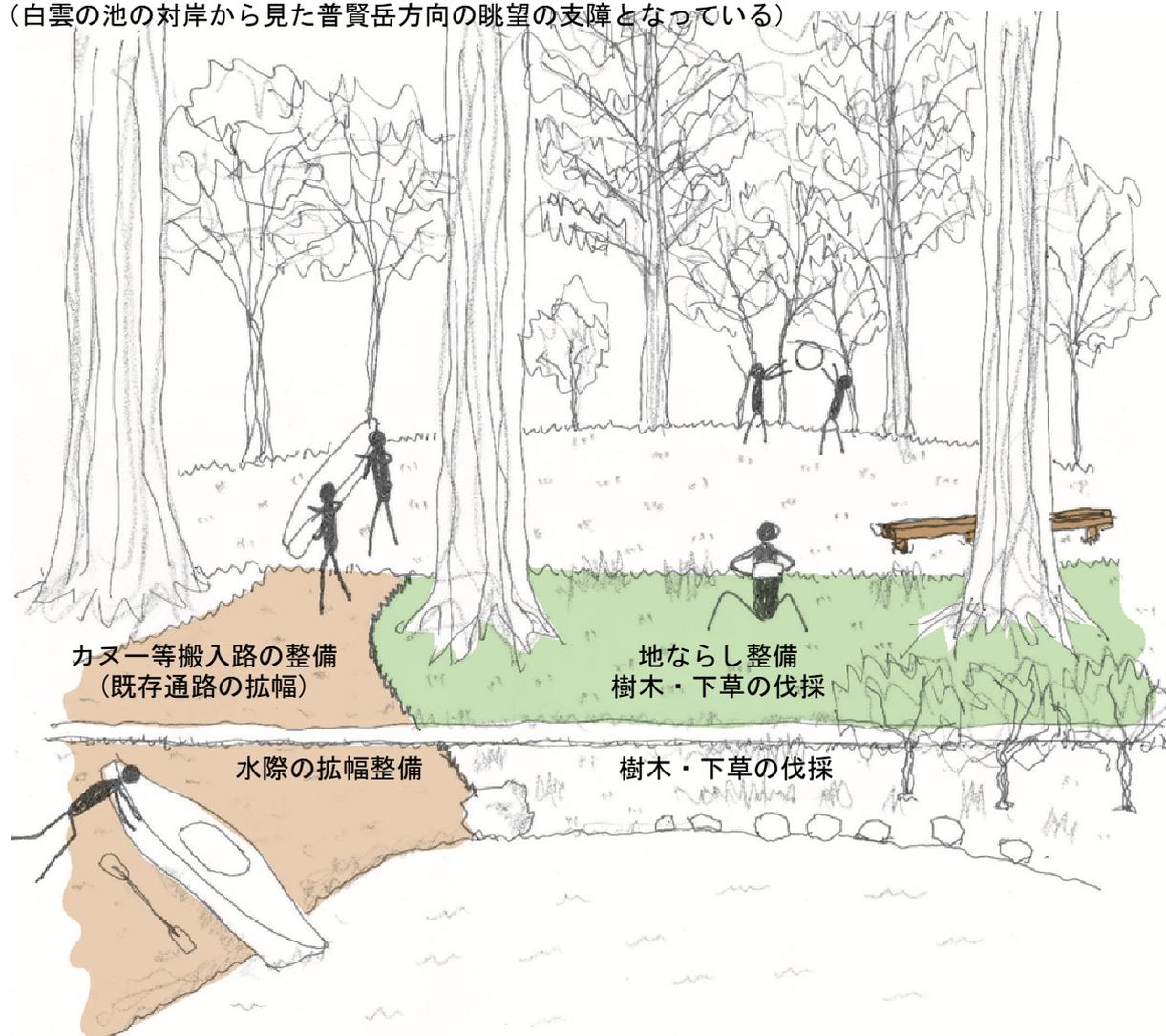
#### <1) 白雲の池へのアクセス（遊歩道）>



- ・ 遊歩道の手前から案内サインを連続して設置し、周辺資源との連絡の向上を図る。
- ・ 五叉路の交差点では、「入口」を印象づけるサインの設置など景観整備を進める（広告看板等の改善も検討）。
- ・ 観光客の歩行ルートにあわせて、必要な箇所の拡幅や段差の解消を図る。

## <2> 芝生広場周辺</h2>

樹木の通景伐採  
(白雲の池の対岸から見た普賢岳方向の眺望の支障となっている)



- ・ 駐車場と池の双方に隣接する立地を活かして、カヌー等のアクティビティに活用できるように、芝生広場と水辺の連続性の確保、カヌー等を水辺へ運ぶ搬入路の整備などを図る。
- ・ 水際の拡幅整備や樹木・下草の伐採などにより親水性を高める。

### <3) ボート乗り場周辺>

- ・ 管理棟を移設し、跡地を車輛の転回場、荷物の積み替え場所にし、リヤカー等を用意する。
- ・ 登山道の入口部分では、ボート小屋として使われている建屋を現在の管理棟方面へ移築する。跡地には東屋を新設し、この周りに親水デッキや芝生広場を配置して、明るく健康的な空間へとつくり替える。
- ・ ボート乗り場の周辺では、水辺の植栽を背の低い樹木に入れ替えることで、芝生広場やキャンプ場など対岸からの視認性を高める。



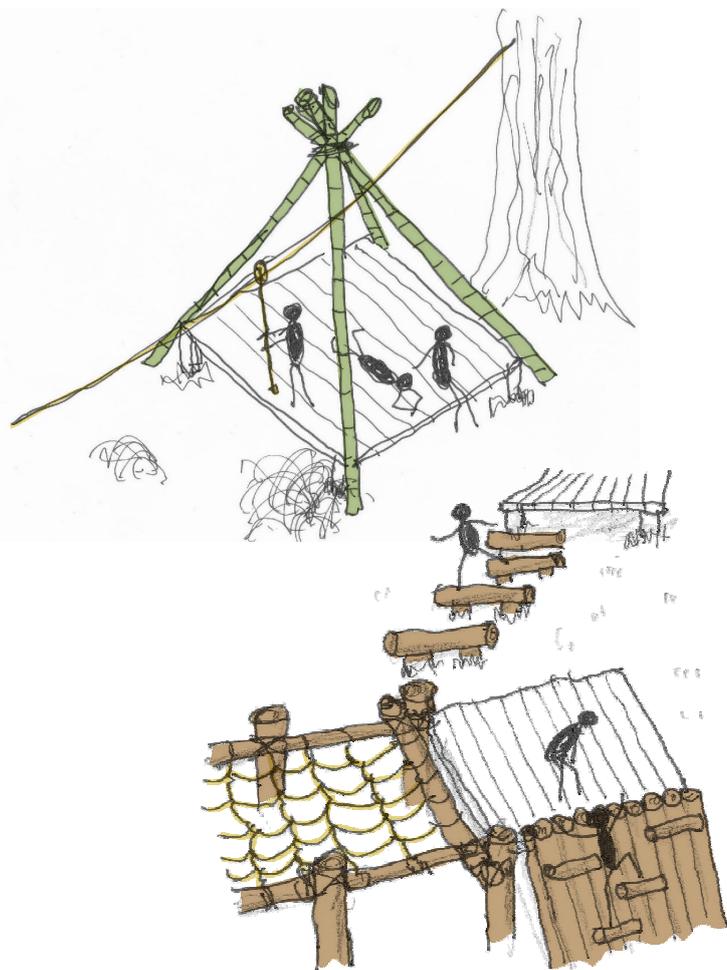
<4) キャンプ場周辺>

- ・ キャンプ場外周の園路を概ねの目安にした施設の縮小化や利用頻度の低い施設を撤去する事により、管理がしやすく安全な施設への転換を図る。
  - ・ エリア内のゾーニングを明確化し施設の活性化を図る。
- 丘から湖に向かう斜面を原っぱにし、みんなが水辺の景色を楽しめる展望広場として開放するとともに、フィールド・アスレチック等のアクティビティやピクニック・BBQが楽しめる広場、ピザ釜やスモーク釜などを配置した炊事棟や、様々な楽しみ方ができる空間を配置したアクティブゾーンを設定する。
- 管理棟（兼 カフェ 兼 宿泊用コテージ 兼 アクティビティ受付等）やベンチ等を設置して、オープンカフェや静かに読書や描画を楽しむことができるやすらぎ・くつろぎゾーンを設定する。
- 大きな平地を確保した多目的広場では、キャンプファイヤーや野外ステージを活動した野外コンサート、野外イベント野外コンベンションなどを想定した広場・イベントゾーンを設定する。





管理棟 兼 カフェ 兼 宿泊用コテージ 兼 アクティビティ受付のイメージ



左：フィールド・アスレチックのイメージ  
(テント土台と竹でつくった秘密基地+ターザンロープ)



右：水辺へと続く芝生展望広場のイメージ

## (4) 絹笠山リフレッシュ整備

### 1) 整備方針

かつては「サンセットヒル」と呼ばれた雲仙温泉に最も身近な自然・景観資源であった「絹笠山」であるが、現在は登山道の荒廃や植生の遷移による景観阻害などによって、良質なトレッキング体験を提供しづらくなっている。このような課題を踏まえて、以下のような方針のもと絹笠山のリフレッシュ整備を進めることとする。

- 安全で快適な登山道の再生
- 優れた眺望景観の再生
- 「温泉に一番近い魅力的なトレッキングコース」としてのPR

サンセットヒルを復活し、利用者を5～10年で2,000人から6,000人へ

### <現在の絹笠山の様子>



### 2) 整備項目

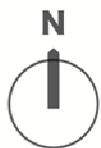
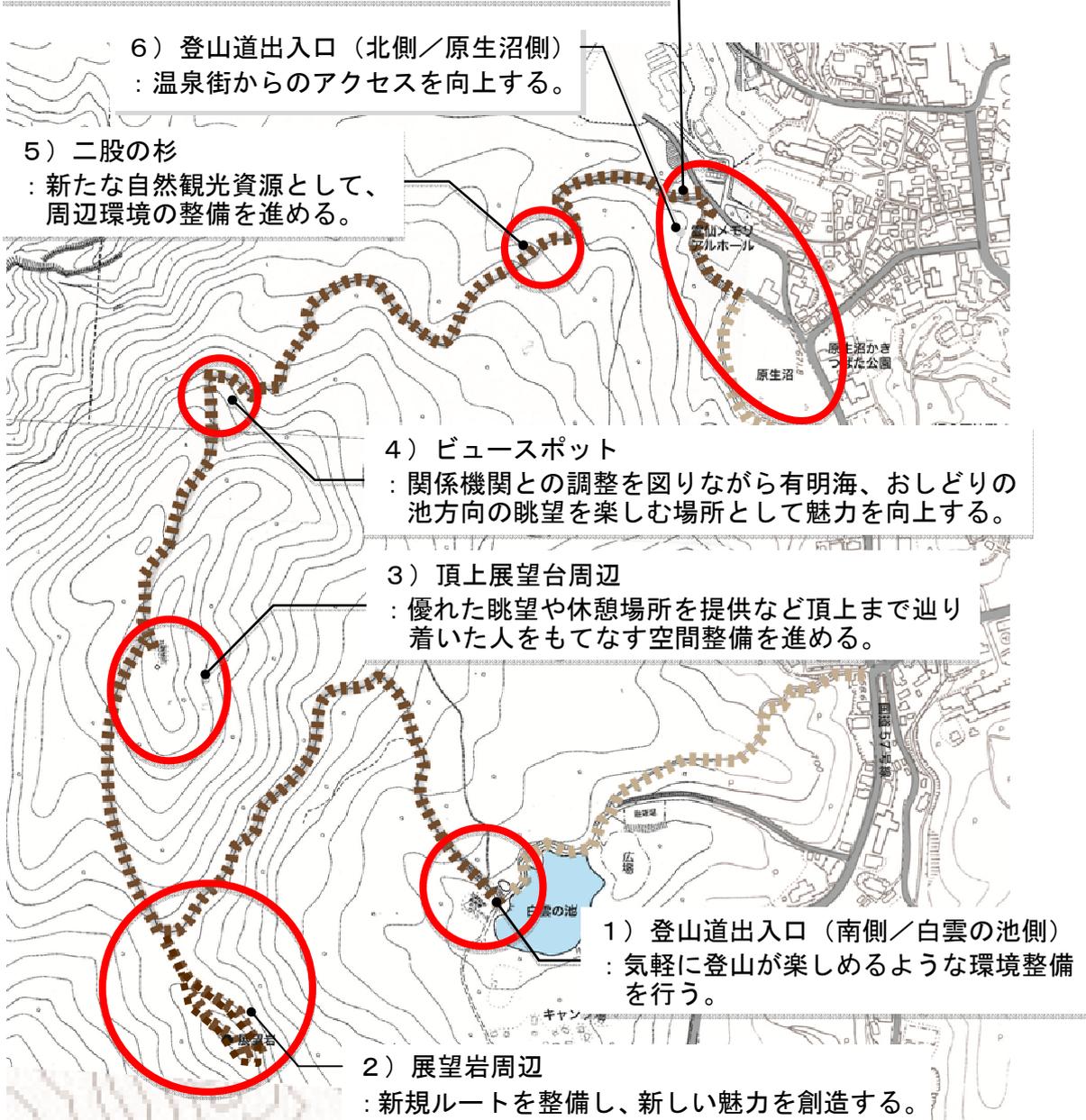
絹笠山リフレッシュ整備における主な整備内容は以下の通り。整備箇所については、次頁の地図を参照のこと。

| 整備箇所                    | 主な整備内容  |
|-------------------------|---|
| 1) 登山道出入口<br>(南側／白雲の池側) | ・道標、登山ルートの見所・山頂風景の解説板等の設置<br>・出入口付近の植栽の枝払い、剪定、伐採による明るい登山口の演出<br>・白雪の池周辺の整備と連携した環境整備（前項参照） |
| 2) 展望岩周辺                | ・展望岩への登山道の新設、道標の設置  |
| 3) 頂上展望台周辺              | ・通景整備（温泉街・橘湾方向の枝払い、剪定を実施）<br>・展望台の上に風景の解説板を設置（橘湾方向）<br>・山名板の設置                            |
| 4) ビュースポット              | ・通景整備（有明海・おしどりの池方向の枝払い、剪定を実施）   |
| 5) 二股の杉                 | ・新たな観光資源としてPR（解説板の設置、撮影スポットの確保等）  |
| 6) 登山道出入口               | ・案内看板、道標、登山ルートの見所・山頂風景の解説板等の設置  |

|           |   |
|-----------|---|
| (北側／原生沼側) | ・ 出入口付近の植栽の枝払い、剪定による明るい登山口の演出   |
| 7) 登山道全般  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不陸整正、石組階段、縁丸太、横断排水の整備</li> <li>・ 法面木柵土留の補修等</li> <li>・ 登山道上の枝払いの実施、周辺の枯死した危険木等の伐採</li> <li>・ 道標の設置（距離、予想時間）、樹種名板等のその他情報の掲示</li> <li>・ 休憩用のベンチ等の整備、放置された間伐材の活用検討</li> </ul> |

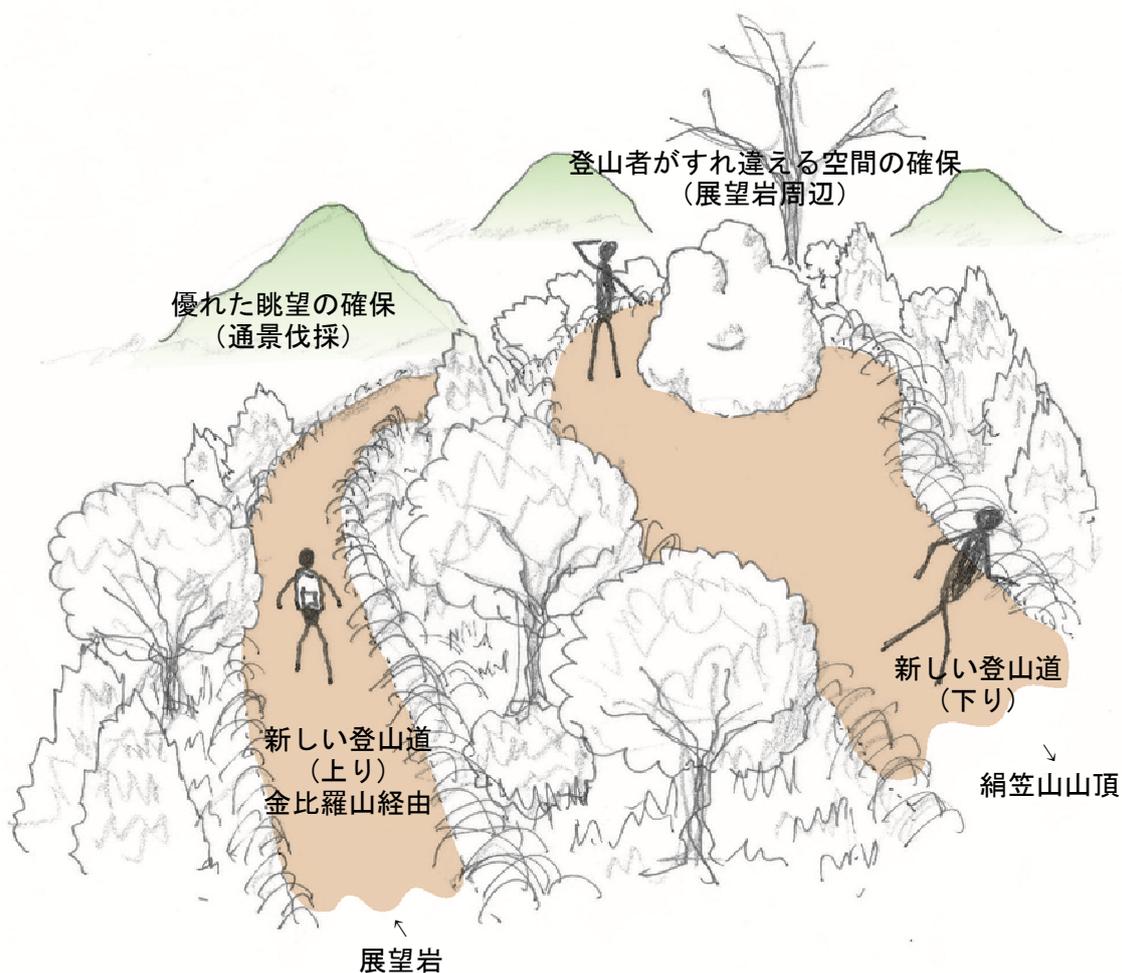
7) 登山道全般

：温泉に一番近いトレッキングコースとして、気軽に登山が楽しめるよう良好な雰囲気づくりを進める。



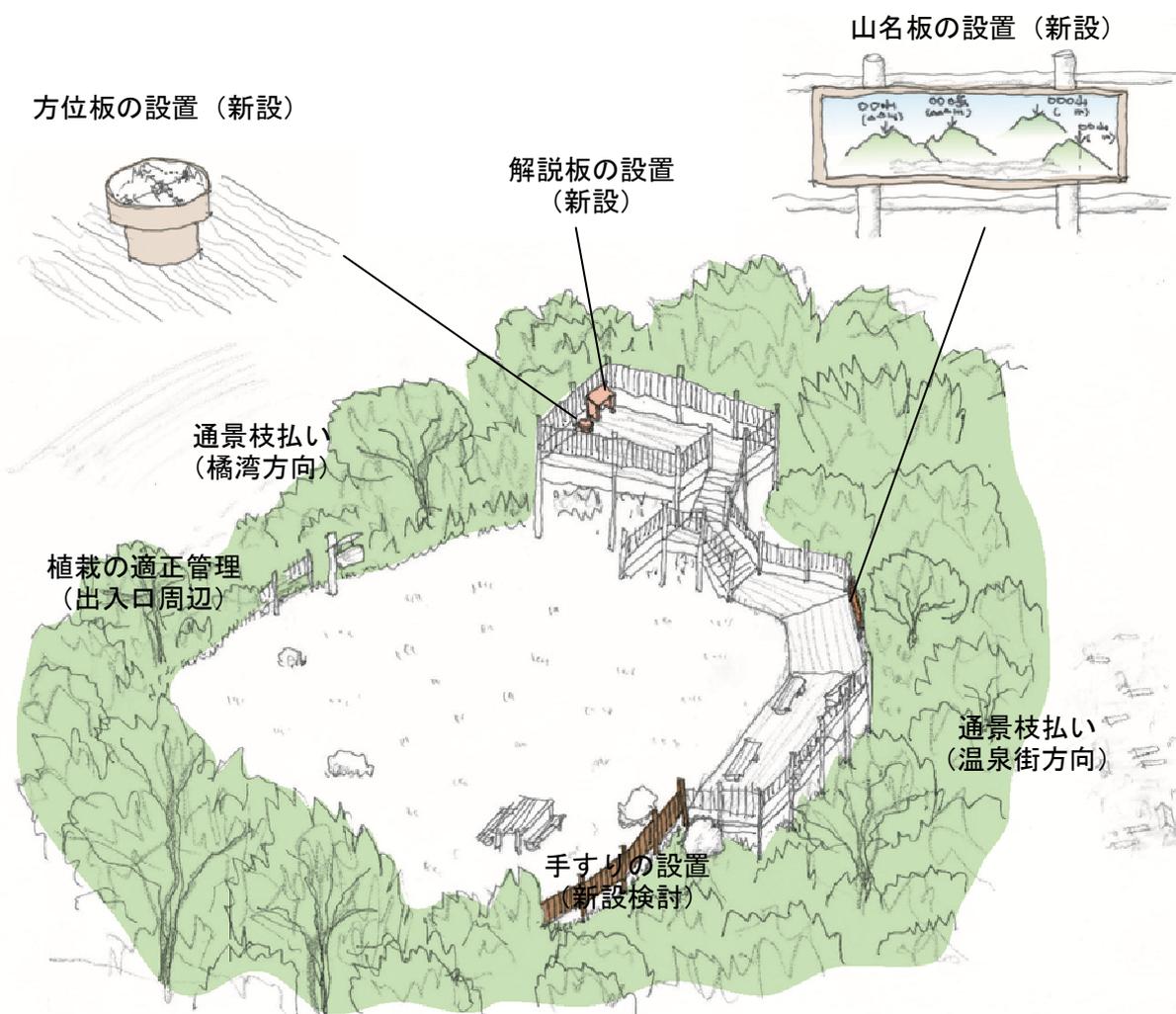
### 3) 主要箇所の整備イメージ

#### <展望岩周辺>



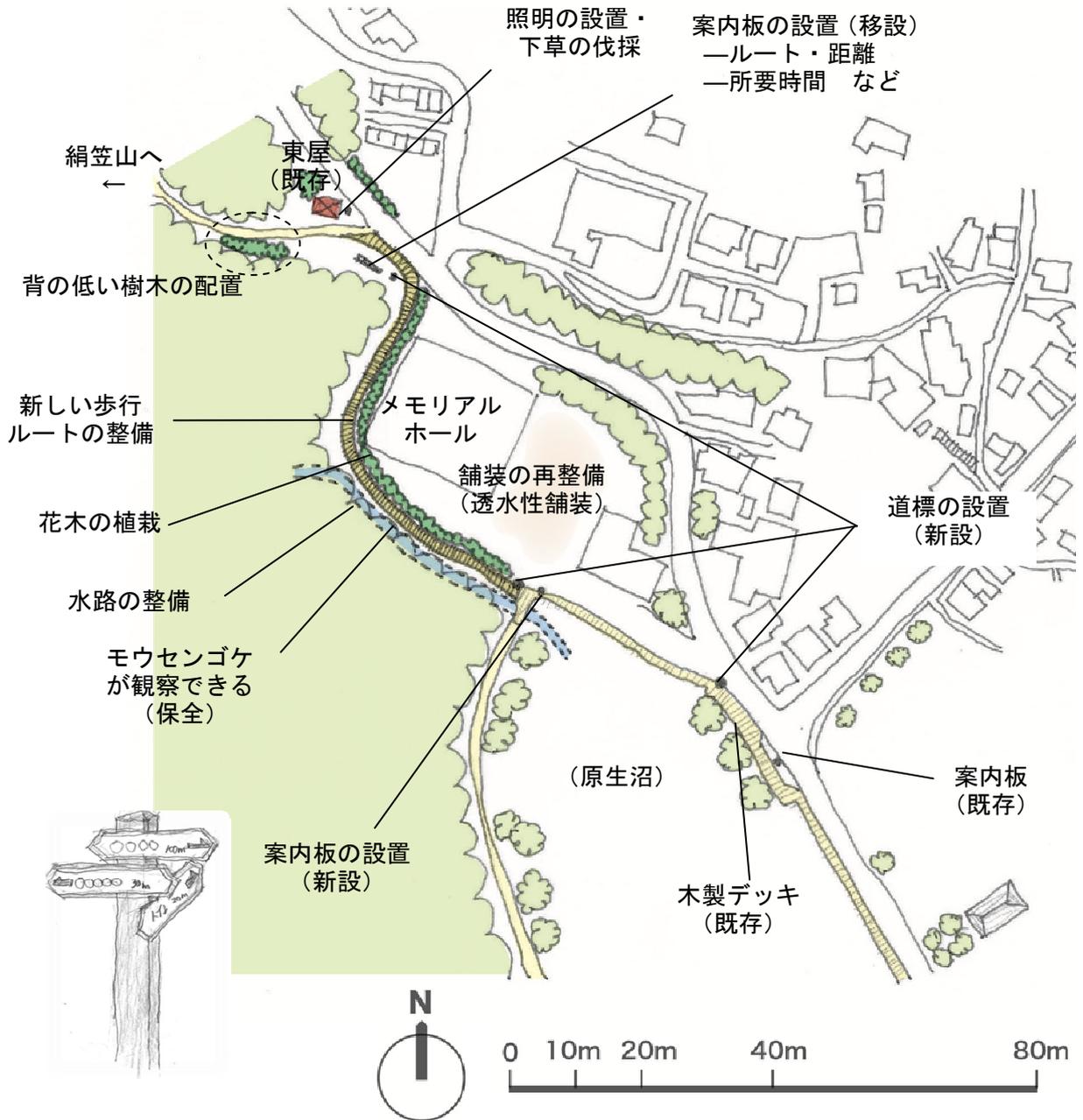
- 周囲に眺望を遮るものが少なく山の上の景観を楽しむことができる展望岩まで新しい登山道を整備し、絹笠山登山道の魅力を高める。ただし、ルートは地権者（長崎バス）と交渉の上決定する（道幅は1.0～1.5m程度で下草刈り、枝払いのみを基本とする）。
- 展望岩の周辺は、登山者が十分にすれ違えるスペースを確保した上で、できるだけ自然を残した整備とし、頂上展望台との差別化を図る。
- 想定ルート脇にあるこんぴらさんの活用や既存の登山道の分岐点に案内表示を設置するなど、登山者を適切に誘導する。

<頂上展望台周辺>



- ・ 最大の資源である東西方向に広がる眺望を楽しむことができるよう、通景枝払いや解説版の設置など既存の展望デッキ、展望台周辺の使い勝手を改善する。
- ・ 出入口周辺の環境整備や温泉街方向の開放感を高める手すりの設置（デッキ空間の拡幅）検討など、頂上展望台のさらなる空間演出を進める。
- ・ 頂上の芝生広場の盛り土など、周囲の樹木の伐採を行わずとも、寝転びながら海や山、温泉街が見える工夫も検討する。

<登山道出入口（北側／原生沼側）>



- ・ 温泉街や原生沼方面からの絹笠山登山口へのアクセスの向上を図る。
- ・ また、現在の登山口周辺は寂しい雰囲気であるため、絹笠山から降りてきた登山利用者には、いかにも「原生沼に下りてきた」という雰囲気づくりを行い、最後まで自然を楽しみ、そのまま温泉街に帰ってこられる工夫をする。
- ・ 既存の東屋の周辺には、登山道に関する案内板の設置や鬱蒼とした樹木の枝払いや剪定、背の低い樹木への入れ替えなどを行い、登山道入口部分の雰囲気を明るく演出する。

